



左利きの指導を受けている様子

子どもたちからの質問があり、青山先生の字が上手な理由を聞かれています。

青山先生…皆さんは、上手な字は、どうしたら書けるようになると思いますか。



たくさん字を書いて、文字を書くコツを体に染みこませるのが一番だと思います。

青山先生…そうだね。先生も練習をたくさんしました。ただ、練習だけしていても上手になるとは限らないのです。「なぜだろう？」と考えを持つことが大切で、それは「見方」とか「考え方」って言うのだけれども、いつも「問い」を持ちながら練習するほうが、ただ体に覚えさせるより、数段、自分のものになると思うのです。だから先生の強みはね、どこが正しいポイントなのか、「かぎ」を見つけれられたことなんです。皆さんも「かぎ」を探して、自分の引き出しをいっばいにするように、意識して練習してほしいと思います。

青山先生と子どもたちが、「書写を学ぶ意義」について考えます。
青山先生…なぜ、書写を学ぶのかな？



字が整うための過程を、みんなで協力して探すことが大切で、それを学ぶためにあるのかな。



自分を整えるために必要なんじゃないかと思いました。学校生活に生かせるんじゃないかな。

青山先生…これからの皆さんの書写の学習が豊かになることを期待して、今日はここまでにしたいと思います。

全員…ありがとうございました。



青山先生…はい、ありがとうございました。先生、頑張ったかがあったなあ。



書写は、文字を書くことだけを勉強するのではなく、他教科にも役立つと考えました。今日学んだことは、文字を読みやすく書いたり、速く書いたりできるようにするためのコツだと思います。それでノートがきれいに書けると、見返したときに見やすくなると思います。

青山先生…皆さんは書写の学習を書写以外の教科でも生かすということに気づいたね。書写は何のためにあるかと質問すると、大半の人が「文字をきれいに書くため」と答えると思います。でも、皆さんが気づいた通り、考えて理解したり、「かぎ」を知って意識して書いたりすることがすごく大切です。そして、その字は日常のいろいろな場面で生きてきます。すぐくいだいな考え方に生き着いたね。



書写の学びについて話し合う子どもたち



ノートをとるときに生かしたい、読み手のために整った字を書きたい、もっと「書写のかぎ」を生かしたい。子どもたちは書写の学びの大切さにたくさん気づいてくれました。タブレットは学びの姿を変えます。でも、書写の大切さは変わりません。思いついたことをさっと書きつける。読みやすく書く。「手」で書くことの大切さは生活に息づいています。

書写の学びの豊かさを感じてくれたこと、私はとてもうれしかったです。

お読みいただいた先生方へ

「書写の学びの大切さを子どもたちへ」

私たちはそんな願いを込めて、教科書を編集してきました。

実際に教科書を手にとっていただき、ご覧いただければ幸いです。

【参考】教科書紹介ホームページ

